

プロフィール

大学では経済学・国際マーケティングを専攻。卒業後、日系消費財メーカーにてマーケティングを担当した後、青年海外協力隊としてルワンダへマーケティング職種で派遣。地方活性化を目的に、農業・食品に携わる現地中小企業に対して商品・市場開発の技術支援を行う。その後、ルワンダの民間コーヒー生産会社でマーケティングマネージャーとして経営改善に携わったことを契機に、より経営支援に興味を持ち、英国 University of London で経営学修士号を取得。修了後、日本で外資系経営コンサルティングファームに就職し、大手民間企業の経営戦略に関するプロジェクトに従事後、本事業に参加。2020年3月にFAO ザンビア事務所に国連ボランティア（UNV）として派遣され（同事務所での肩書はバリューチェーン開発専門官）、農家の持続的な収入確保のためのビジネス支援を担当。本事業での派遣期間終了後の2021年4月より派遣先の事務所とコンサルタント契約を締結し活動を継続中。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

国連で自分の民間経験を活かしたいという想いで本事業に応募しました。国際開発分野を専攻したことがない自分にとって、本事業における国内研修での平和構築・開発分野の実践的な学習と海外派遣での1年間の国連機関の現場経験は、不足している知識・スキルを補完し、より広い視野・高い視座で国連キャリアをスタートできる最適な機会だと考えました。

私の周りには国連で働く友人や先輩方がいますが、その多くは元々国連を目指してキャリアを長年歩まれてきた方々です。私のように民間中心のキャリアから国連に入るためには国際開発関連を専攻した大学院を經由する等、時間と費用が掛かります。そもそもビジネスで貧困解決を目指すキャリアを歩んできたため、専門色は強いものの、行く末は民間セクターに限定されたもので、国連で働くには程遠いキャリアでした。しかし本事業では、民間で培ってきた経験も含めて国際開発にどれほど貢献できるかを客観的に評価されると伺い、民間の専門性を、インパクトが最大化できる国連で活かしたいと考え、応募を決意しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

人道・開発支援の知識と経験がない私にとって、5週間14名の日本人研修員、9名の外国人研修員と共に過ごした国内研修は、大変満足度が高い経験になりました。その理由は大きく3つあります。

1つは包括的かつ実践的な平和構築に関する知識が得られるプログラムになっていること。テーマとしては平和構築実現に必要な人道・開発支援の両方を学ぶことができます。またアプローチとしては、最初に講師の方から理論を、そして私達研修生がその学んだ理論を実際起きているケースを題材にディスカッションやプレゼンテーションを通してアウトプットするプログラム構成になっており、予備知識の有無に関係なく議論に参加できる環境作りができており、積極的に意見をぶつけ合うことができました。これは国連という様々な文化背景を持った集団の中で自分の考えを理論立てて伝えたり、相手の意見を聞き入れたりするための演習として大変役立ちました。

2つ目は国連経験豊富な講師陣によるクオリティの高い講義です。平和構築の第一線の現場でご活躍された方々にお会いする機会は、国連に入ったとしてもなかなか巡り合うものではありません。そんな方々から、現場でしか分からない感覚や価値観を惜しみなく共有していただける5週間は本事業だけだと思います。取り扱うケースのリアルさ、そして講師陣からのフィードバックは国連で働くための現場感覚の醸成に繋がりました。

3つ目は人的ネットワークです。前述の個人的なキャリア相談にも快く乗ってくださる約30名の講師陣との関係はこの研修に留まらず続いていく財産です。また、南スーダン、コンゴ、ミャンマー等の紛争経験国から参加している外国人研修員や、多様なキャリアを歩んできた日本人研修員から直接色々な国・機関の内情を聞くことができたことは自分のキャリアの参考になっています。

以上のような特別なプログラム設計と質の高い講義、またネットワークが担保された国内研修は他にはなく、大変貴重な学びの場として自分の国連キャリアに活かされています。



写真1: 国内研修中のグループワークの様子



写真2: 国内研修講師陣へ質問する研修員の様子

3. 業務内容について教えてください。

私は2020年3月より1年間FAO（国連食糧農業機関）アフリカの国事務所の一つ、ザンビア事務所で Value Chain Development Specialist (UNV) として、Programme Unitに所属し、ザンビア国内の2つの農家支援プロジェクトに携わりました。UNVの任期は2021年3月で満了しましたが、新たに Agribusiness Specialist としてコンサルタント契約を締結し、引き続き同様の活動を担当しています。

ザンビアは貧困問題と食糧不足が深刻な国の一つです。全人口の54%が国連の貧困ライン以下の生活を強いられており、特に地方（77%）に集中しています¹。33%の人々は食料安全保障において、緊急対策が必要または危機的レベルにあると言われていています²。食糧にありつけている人の中でも、栄養不足が47%に達する³など、一刻も早いアクションが必要になっています。その中で、FAO ザンビアでは主にSDG1「貧困をなくそう」とSDG2「飢餓をゼロに」、またザンビア政府開発計画の達成のために優先エリアを4つ指定しています：A) 生産量と生産性の改善 B) 自然資源の持続的管理と気候変動対応 C) 食糧と栄養の安全保障 D) 市場アクセスと衛生の改善です。上記4つに沿って、2020年末時点で18のプロジェクトを実施しており、私が担当したプロジェクトは下記2つです。

1. 農業生産強化プロジェクト「Sustainable Intensification of Smallholder Farming Systems in Zambia (SIFAZ)」

EUが支援している4.5年のプロジェクトで、16,000世帯の農家を対象に収穫量の多い主要作物メイズや豆類を中心とした農作物の最適農業技術の普及と、持続可能なビジネスモデルの構築による収入向上を目的にしています。7名1チームで、上司はマラウイ人、他はザンビア人と私です。私の役割はバリューチェーンの調査・分析・問題定義・解決策提案、並びに民間連携強化提案で、ザンビア政府・ドナー・民間企業等のパートナーと協働して農業ビジネス戦略を策定しています。個人の裁量に任せてもらえる部分がとても大きく、同時に責任の重い役職でもあり、高い専門性と分析力が求められましたが、上司とのコミュニケーションやチームメンバーからのアドバイスで1年という短期間でも適応、貢献することができました。

¹ Living Conditions Monitoring Survey (CSO, 2015)

² Integrated Phase Classification (IPC) analysis (FAO, 2019)

³ Global Hunger Index (Welthungerhilfe and Concern Worldwide, 2020)



写真 3: SIFAZ チームメンバーとの集合写真



写真 4: SIFAZ チームメンバーとフィールド調査をする様子



写真5: SIFAZ チームメンバーと World Food Day イベントを催行した様子

2. アフリカ地域全体の技術協力プロジェクト「Promoting Employment Opportunities for Youth in Agribusiness in Africa (OYA)」

国連工業開発機関（UNIDO）との協働技術協力プロジェクトで、農業ビジネスにおける若者雇用支援を目的に活動しています。ザンビア人の上司が監督していますが、ほとんどの業務を私が遂行するというチーム体制です。私の役割は、ザンビア国フォーカルポイントとして、プロジェクトのリードを行なうことです。UNIDO 本部・国事務所、更には FAO 地域事務所とコミュニケーションを取りながら、1人の現地コンサルタントを監督して若者実態調査・プロジェクトアクションプラン・関連機関調整・資金調達を進めています。こちらはプロジェクトの開始段階から計画立案や人事権まで上司の承認の上で私に委任されている部分が多く、大変やり甲斐があります。

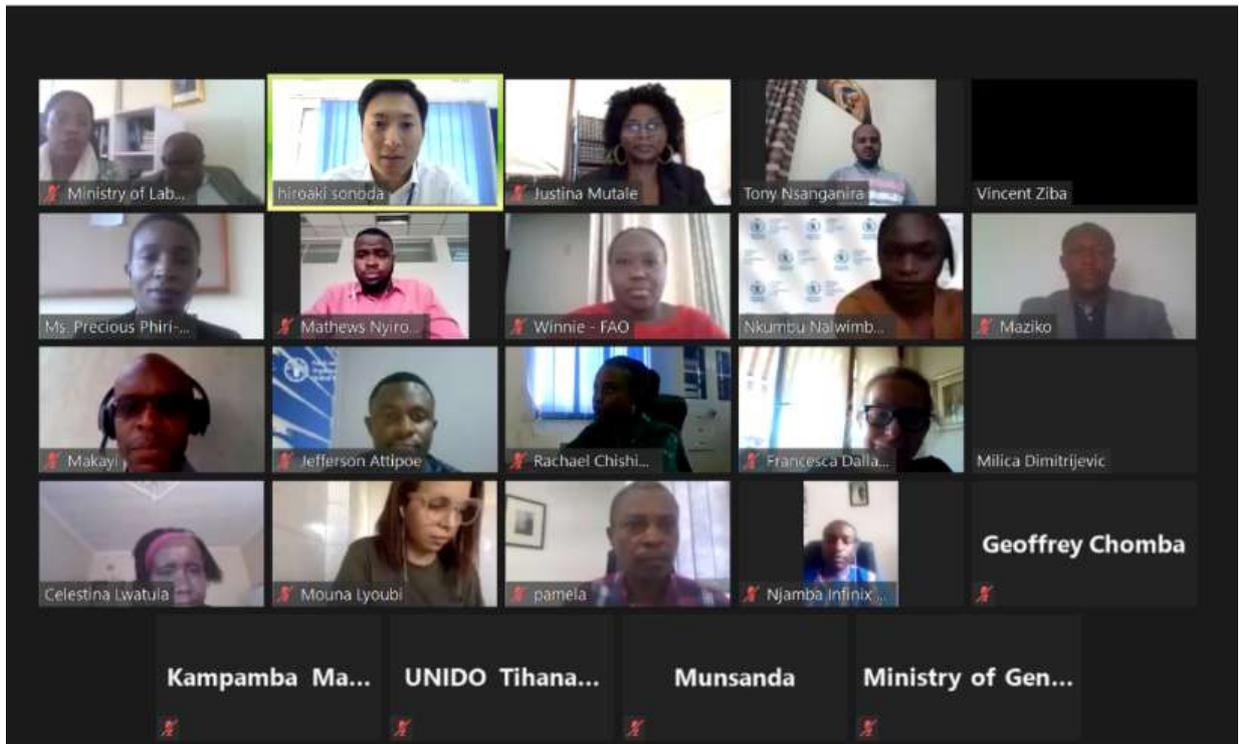


写真 6: OYA プロジェクトのオンライン Project Inception Meeting 開催の様子

派遣時の TOR では SIFAZ プロジェクトのみ専門として勤務する予定でしたが、業務を続けるに当たり、より裁量の持てる OYA のようなプロジェクトも担当させてもらえるようになりました。上記以外では、日本大使館との橋渡し役やコミュニケーションオフィサー代理等、できることを幅広く請け負うことでより多くのステークホルダーに関わることができました。

4. 海外派遣での感想は？一番印象に残っていることは？

1 番印象に残っていることは、コロナ禍で FAO ザンビアへ赴任した派遣当初の働き方改革です。働き方に対する柔軟性と対応力を求められた貴重な機会となりました。

私が赴任したのは 2020 年 3 月初旬で、世界でコロナが蔓延し始めたのとちょうど同じ時期です。未曾有の感染症が広がる中、FAO ザンビアでも既存プロジェクトをこのまま続けられるのか、勤務体制をどう調整するか、コロナ対策として農業支援に何が必要か、という緊急対応に全ての人を追われていました。自分自身経験したことのない国連でのスタートは、赴任直後の 2 週間の隔離生活から始まり、そのままテレワークに移行したため上司やチームメンバーにも会うことができないまま過ぎていきました。上司はコロナ対応策で話す時間が取れず、チームメンバーは慣れないテレワークでインターネット接続もままならない状況。プロジェクトで予定していた活動は全て延期になり、一から戦略を練り直す必要がありました。右も左も分からない私にとって、直接顔を合わせて話せないチームとの距離感は大きく、彼

らもどうコミュニケーションを取っていけばいいかわからない状態で情報交換がうまく進まないまま2か月が経きました。

そんなコロナ拡大の真っ最中に考えたことは2つありました。

- ・赴任したばかりで何もわからない情報レベルを、この特殊な環境でいかに高めるか
- ・直接会って話せない自分が、コロナ禍でチームに貢献できるか

まず情報はデスクトップリサーチで関連するレポートは全て読み漁り、それ以外の内部情報は、FAO ザンビア事務所のあらゆる人と直接電話で連絡を取って入手しました。またオンラインでのコミュニケーションでは、いかに早くアウトプットを出すかというスピード、そしてそれを分かりやすく作り、説明するかというプレゼン力の2つがキーだと思ったので、上司等が困っている課題に対して積極的に手を上げ、議事録、報告書やプレゼンテーションを即座に作成し、分かりやすく説明するように意識しました。人がやりそうにない面倒なことも果敢に挑んだ結果、FAO が取り組んでいるコロナ対策の修正案策定に関与することができるなど、直接会ったことがない人にも仕事を任せてもらえるようになりました。その甲斐もあり、自宅勤務でほぼ直接コミュニケーションが取れなかった上司に初めて会って話げた5月中旬に、即戦力のようにチームにすぐ迎え入れられた感動は今も忘れられません。

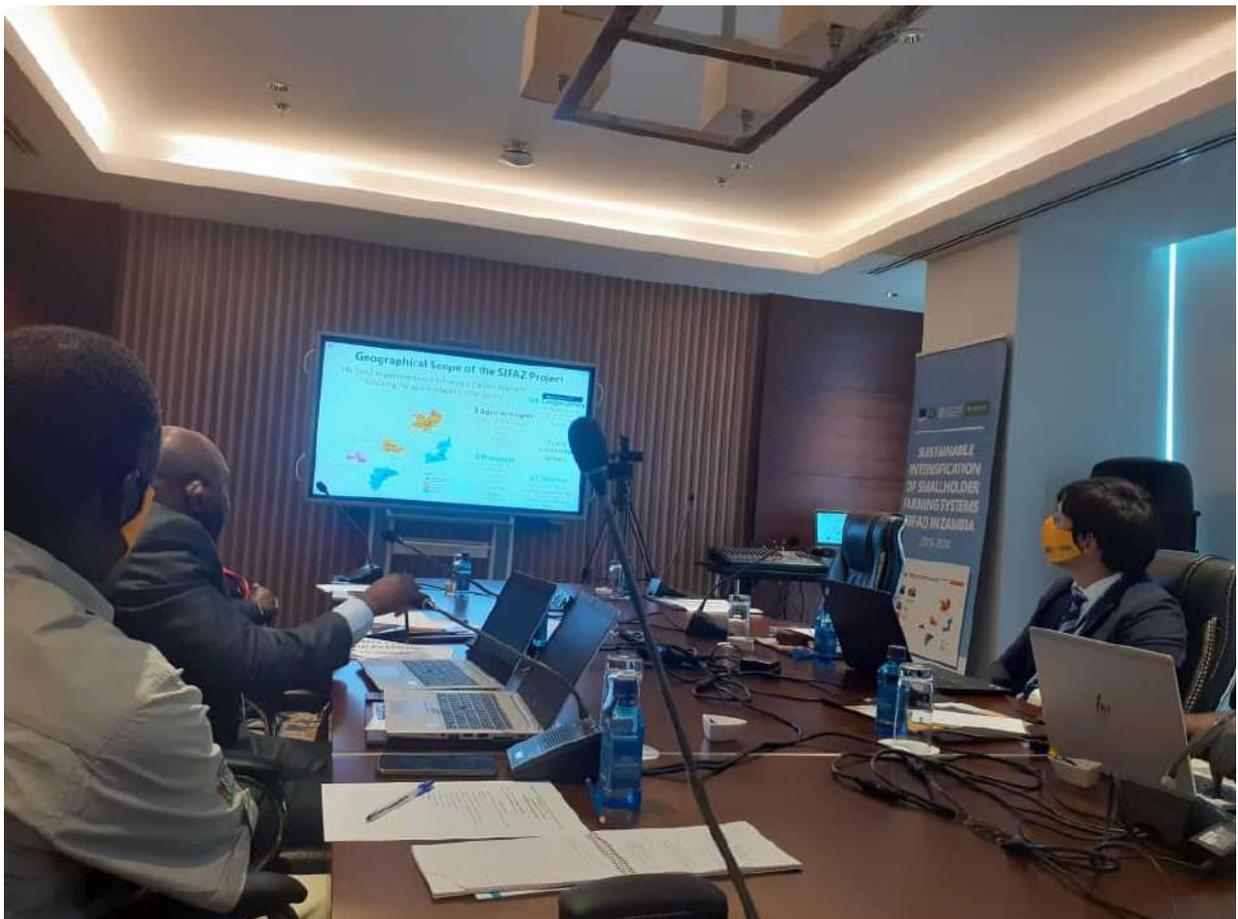


写真7: プロジェクトのオンライン会議で国内外のステークホルダーとプレゼンをする様子

国連では職業柄、様々な環境変化への対応力がいつでも求められます。その貴重な機会を幸いにも赴任当初に肌で感じる事ができたのは大きな財産であり、逆境をいかにチャンスと捉えて活かすのかという良い教訓になりました。この経験があつてからは、どんなことが起きてても冷静に受け入れ、対応する柔軟性と対応力が養われたと実感しています。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

引き続き国連（特にFAO）で貧困解決に従事したいと思っています。それは今回の派遣を通して改めて、国連でしか達成できない業務の意義と自分がやりたい農業ビジネスの潜在的なニーズの2つを実感したからです。

やり甲斐に関しては、国政府と直接関わり政策支援をすることは民間ではできなかったことでした。そのプロセスに自分が関与して持続的な支援環境を作るやり甲斐は、国連以外では代替は難しいと思いました。また、ジェンダーやコロナ等の分野横断的な課題（cross-cutting issue）も社会全体に与えるインパクトを考えると、国連の実施するプロジェクトの大きさは他の追随を許しません。

更に自分が従事していた農業ビジネスの潜在的なニーズについては、今後国連内で大きな需要の高まりが想定されると感じました。それは、持続的な農業経営モデルにおいてビジネス視点が重要であると強く意識され始めており、民間連携や民間人材の積極的登用がされていることから明らかでした。私自身が培ってきた民間ビジネスでの経験が、戦略策定における意見や会議の資料作りにおいても認められることは、自分の貢献度の大きさに直結しています。そして今までやったことのないアプローチで解決策が描けることは、受益者にとって大きな改善の可能性をもたらします。その点で自分が国連に残り活動することで、より受益者である農家に価値のあるプロジェクトを遂行し、貧困解決にまい進できると確信しました。

短期的には、本事業のFAOザンビア事務所への海外派遣を2021年3月終了後に、同事務所でコンサルタント契約を結び、引き続き2021年末まで前述の業務に従事する予定です。中期的には、今回の海外派遣で学んだ経験を活かし国連でのキャリアアップを考えています。具体的には、やはりマネージャーとしてプロジェクト形成や指揮が取れる立場でより広く、深く貧困解決に貢献したいと思っています。2021年度JPO試験や空席公募による機会を活かし、本部・地域事務所・国事務所で農業ビジネスを通じた開発支援に継続的に尽力したいです。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

本事業のプライマリーコースは、私のように平和構築・国際開発に関する知識や国際機関での経験は乏しいが、国連に入って貢献したい強い意志、高い専門性と豊富な民間経験がある

方に是非トライして頂きたいコースです。なぜならば、本コースでしか得られない魅力が大きく4つあるからです。

1つ目は国内研修です。国連経験豊富な講師陣から人道・開発の両分野を体系的かつ実践的に教わることが可能です。国連特有の業務感覚の理解促進に役立ちます。2つ目は手厚いキャリア指導です。国連応募書類の指導から面接対策、定期的なキャリア相談が可能です。これはコース修了後の将来設計を大きく左右します。3つ目は人的ネットワークです。前述の国内研修然り、個人では出会うことが難しい国連ベテラン陣とのセッションは、キャリア形成にとって非常に有用な情報源です。更に異なるキャリアを歩む同期・先輩との交流も多く、コース修了後も各国際機関の情報共有ができます。最後の4つ目は豊富な国連勤務の選択肢があることです。私の場合は約100の職種から自分に最適なものを見つけ、直接国際機関の方の詳細な説明を受けて決断することができました。国際機関勤務が初めての私でも納得いく仕事選びができたおかげで、充実した海外研修となりました。

以上の本事業ならではのメリットから、より多くの人に、国連へのエントリーポイントとして本事業への参加を勧めたいです。